よしだともこの

Linux事始めの書

第0回
あなたの"Happy Linux Life"を応援します……

祝「Linux Japan」の月刊化! を記念して、新連載をスタートさせることにしました。どうぞよろしくお願いします。

よしだともこ　http://www.tomo.gr.jp/

My "Happy Linux Life"

実は私、かなりの童話オタクです。子供の頃から愛しているいくつかの童話のクライマックスの部分の主人公のセリフなどは、ソラで言えるほどです。恋愛もののアメリカ映画もたいてい好きです。それらの共通点は、きまってハッピーエンド。そう、私は、「お姫様は幸せに暮しましたとさ」系の物語が、非常に好きなのです……。

そして私は今、Linuxを非常に楽しんでいます。だから、「うふ、私のLinux Lifeって、まるでハッピーエンドの物語みたい。私は主人公のお姫様なの」なんて思っていたりします。おめでたいヤツだって呆れられそうですが……。時々、私はなぜこんなにLinux Lifeが気に入ったのだろう……と考えてみることがあります。

あらためて列挙すると、こんなところでしょうか。

(1)Linuxコミュニティに魅力を感じる
(2)Linux系のメーリングリストが楽しい(イベントや宴会に参加して、他のLinuxerと出会える)
(3)ネットワーク上にLinux関連の情報が豊富にあるのがうれしい(情報の検索方法を知っている)
(4)各種のフリーソフトウェアが育っていく姿に魅力を感じる(実際に多少かかわっていたりする)

ここまでが、Linuxコミュニティに関係する部分です。そしてこれ以外には、

(5)UNIX上のソフトウェアが使えるのがうれしい
(6)UNIXコマンドを入力するのが心地よい(マウス操作が嫌いで、シェルを活用して楽にコマンド入力する方法を知っている)
(7)手元にUNIX関係の書籍や雑誌が豊富にある

という理由もあります。すなわち、Linuxコミュニティの魅力と、Linuxが一種のUNIXであることの魅力の両方が、うまくからみあって、私のLinux Lifeを盛り上げているわけです。

UNIX歴だけは長い私ですが、Linuxを使うようになったのは、実はかなり最近ですよ。コミュニティの活動に参加するようになったのは、さらにもっと最近。Linuxを使うようになったきっかけには、Linux Japan誌の創刊が大きく影響したりするのです。ちょうど、Linux/FreeBSD版のWnn6の発売が決まった1997年当時、この発売推進にかかわっていた私は、Linux Japan誌から記事執筆の依頼を受けました。

今だから言えますが、その時はまだ、FreeBSDを使っていたのです。しかし、「Linux Japanの記事を書くのに、FreeBSDユーザーではまずいでしょ、やっぱり」と思い、ぷらっとホームさんからLinuxプレインストールのパソコンを買ってLinuxを使い始めたのが、Linuxとの本格的な出会いです。OSとの出会いなんて、そんなものかもしれません。運命の人との出会いだって、そんなものでしたからね。うふ♥

世の中の過半数はきっと……

しかしLinux好きな私とは、まったく逆のケースも多いでしょう。つまり、世の中には、

(1)Linuxコミュニティって何？ 魅力は感じない
(2)Linux系のメーリングリストは、近寄りがたい
(3)ネットワーク上のLinux関連の情報が見つからない
(4)Linux上で各種のフリーソフトウェアって何？ 魅力は感じない

という人が多くいるはずなのです。しかも、

(5)UNIX上のソフトウェアは慣れていない(WordとExcelが使えないと非常に困る)
(6)UNIXコマンドを入力するのは手間だ(マウス操作が好き)
(7)UNIX関係の書籍や雑誌など持っていない

という人の方が、多いのは当然です。

まぁ、この雑誌を買って読んでいる人は、ある程度、Linux 好きの方が多いのでしょうけどね。

あなたの“Happy Linux Life”を応援します……

さて。世の中の過半数の人たちにも、“Happy Linux Life”を送ってもらいたいな、あるいは、今後、そんな暮らしが送りたくなった時には読んでみてね、という気持ちで書くことにしたのが、この連載です。そして、「いつの間にか、ふと気がついたら、“Happy Linux Life”をおくっていたわ……。スムーズにLinuxが始められたのは、あの連載のおかげかしら……」というのが最も理想の姿です。

具体的には、主に次のような内容の中から、毎回、1つか2つのテーマを取り上げて、説明していこうと考えています。

・ネットワーク上からのLinux関連の情報の見つけ方
・Linuxコミュニティについて、その活動への参加方法
・UNIXコマンドを便利に使うシェルについて
・UNIXツールを使ったテキスト処理について
・フリーソフトウェアのコンパイルについて
・ネットワーク上で使うUNIXコマンド群　他

以下に、それぞれについて一言ずつ書いておきます。

●ネットワーク上からのLinux関連の情報の見つけ方

Linuxに限らずUNIX関連の情報は、ネットワーク上に非常に多く存在します。ただ、書籍などと違って、目に見える状態で、整列されて置かれているわけではありませんので、うまく情報を検索して利用する必要があります。その基本は、「メーリン グリストで交換された過去のメールのログの検索」です。

●Linuxコミュニティについて、その活動への参加方法

主にボランティアの活動であるコミュニティの活動に首を突っ込むと、けっこうはまります。特に、イベント開催系の活動は、文化祭のノリですから、終ったあとには「またやりたい!」という気持ちになります。そして気がつくとエンドレス……。実は ちょうど今、5月28日(金)に京都で実施された「Eric Raymond 氏京都講演会」の開催を終えたところです。

●UNIXコマンドを便利に使うシェルについて

Linuxの基本となるコマンド入力は、一見、使いにくそうですが、とても便利な面も持っています。スクリプトを書くことで、さらに便利に使えます。

●UNIXツールを使ったテキスト処理

grep、sed、sortに代表されるテキスト処理のUNIXツールを実際の例を示しながら紹介したいと思います。

●フリーソフトウェアのコンパイルについて

フリーソフトウェアのコンパイルをマスターすると、確実に Linuxの世界が広がります。将来、フリーソフトウェアを作る読者が出るといいなぁ……と思います。

●ネットワーク上で使うUNIXコマンド群

UNIX上のftp(ファイル転送)、telnet(遠隔ログイン)の概念は、すでに別のOS上でも使えるようになっています。それらをUNIXコマンドとして使ってみます。

以上が、今後、予定しているこの連載の内容です。

「濃い人」ってどんな人のことなの?!

最後に余談ですが、最近、LLUG(Ladies' Linux Users Group) メーリングリストで、

「濃い人って、具体的にどういう人のことを言うのだろう?」

という話題が出ていました。文例[*1]としては、

「Debian JPの連中、異様に濃いぃぃね(笑)。濃い連中が集まった会場でもひときわ濃いぃぃかったです。」

というような時に使う「濃い」です。

ちなみに私の「濃い人」の定義は、「存在感のある人」です。 絵日記などに登場するときには、他の人よりも濃いマジックでひときわ大きく描かれるような人のことです(笑)。そして、Linuxコミュニティにおける「濃い人」は、Linux界になくてはならない人だと言えるでしょう。「あ〜、こういうことは、あの人に聞けばわかるな」とか、「あの人がなんとかしてくるだろうな」という時などに、顔が浮かぶような人のことを、私は、尊敬のまなざしで、「濃い人」と呼ばせていただきたいですね。

で、この「Linux界になくてはならない、いわゆる濃い人」同志は、非常に仲がよくて、一見、他の人が容易に入り込めないような雰囲気があるのも特徴です。でも、実際は、新しい風というか、新米が入ってくるのを待っているし、そのための努力も惜しまない集団であると、私は分析しています。ただ、この集団に入っていくには、ちょっと勇気が必要です。普通の神経の人は、最初はかなり緊張するようです。

わ、私は、怖い物知らずなのでしょうか。案外スムーズに入っていけたような気がします。ひょっとしたらひょっとして、私も濃い人に分類されるのでしょうか。違うように思いますが。あ、一般的に濃い人は自分のことを、「自分は濃い人ではないと思う」と主張しますね。ということは、私もそうなの……?

そうそう。いい機会なので、よく聞かれる質問の回答を、ここに書いておきますね。

質問「LLUG(えるらぐ)は、なぜ男子禁制ではないの?」

それは、重い荷物を持ってくれたり、道案内をしてくれる人がいてくださると、こっちは安心しておしゃべりが楽しめるからです:-)。 ま、これは、半分は冗談ですが、ある意味で正しい答えなのかもしれません。

「Linuxに興味を持つ女性が中心になって、ワイワイと楽しめる会にしたいね」

というのが、LLUGがスタートした1998年6月に、私たちが決めた会の方針でした。

「男子禁制でない場の方が、女性はより楽しい」というのが、女子校出身の私の持論です。そしてその反面で、「女性が好き放題、ワイワイ言える場は貴重だ」とも思います。どちらの場にも、それぞれに別の楽しさ、魅力がありますからね。

たぶん、その逆も真だと思うのですが、いかがですか。> 男性の方々

とにかく、現在LLUGには男性もたくさん入ってくださって、いっしょにワイワイ言っています。前述の「濃い人」にあてはまる方々もいらっしゃいます。全体の男女比率は、ちょうど半々ぐらいではないかと思います。それでも、他のLinux関係の各種ユーザーグループとは違う、独自の雰囲気は持ち続けているようです。昔は女子校だった学校が、共学になったものの、女子校時代の文化が脈々と息づいているようなものでしょうか。LLUGは、私にとって大切な場です。

さて、さて。今回は、ほとんど雑談だけで終ってしまいましたが、次回からはより具体的に書く予定ですので、お楽しみに。 次回のテーマは、「ネットワークからのLinux関連の情報の見つけ方」の予定です。

では

次号に続く

*1 Linux Japan、1999年7月号、67ページの中村正三郎さんの記事より引用